誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の福が来るアドバイス

日本人の季節感を考える

早稲田アカデミー
教育事業本部副本部長
福田　貴一

小学生にとっての学習は、テキストとノートを広げて行うものだけではありません。毎日の生活を通して豊かな感性を育むことも、重要な〝学び〟です。特に、四季に寄り添って暮らしてきた私たち日本人にとって、「季節に対する感覚」は大切なものです。中学受験に向けた学習という観点でも、慣用的な表現を理解するためのポイントになるはずです。今回は「日本人の季節感」について考えます。

「天高く馬肥ゆる秋」

４年生の国語の授業で、「天高く馬肥ゆる秋」という表現を学習しました。空気が澄んでいて暑くも寒くもない、秋の気候の素晴らしさを表す言い回しです。聞いたことがある生徒もいたようですが、ちゃんとした意味までは理解できていないようでした。

「馬肥ゆる秋」については、秋が収穫の季節であり、「食欲の秋」というように食べ物が美味しく感じられる季節だ、ということをすぐに理解してくれました。一方で「天高く」という部分の説明は、なかなか難しく感じました。「秋の空は高いといわれるのは知っている？」と質問してみたのですが、残念ながら、ちょっと不思議そうな顔をされてしまいました。

「空はいつでも高いじゃん……」

「夏とあんまり変わらないよ！」

などという答えが返ってきたのですが、「そんなことないよ、晴れた日にちゃんと空を見上げてごらん」という話をしました。

ここからは理科に関する話になりますが、秋の空が高く感じられるのにはいくつか理由があるそうです。一つは、空気中の水蒸気が少なくなる（空気が澄んでいる）ため、空の青さ（宇宙の色）が濃く見えるから。もう一つは、夏と比べると上昇気流が弱くなるため、入道雲のように地面から近い雲ではなく、空の高いところの雲が多くなるから、とのことでした。これらは理科の単元でいうと地学分野にあたる内容で、早稲田アカデミーのカリキュラムでは、５年生で詳しく学習します。

「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」

「空が高い」のような国語的表現のなかには、自分が実際に感じたことがないと理解しづらいものが多くあります。その表現を目にしたときに、「言われてみれば確かにそうだな」と思えることが必要なわけです。そのためには、日ごろから感性を磨くことが大切になってきます。

「空が高い」という話から、続けて「柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺」という正岡子規の俳句にも触れました。この句もほとんどの生徒が知っていましたが、どういう意味を持っているのか、なぜ有名なのかを理解できている生徒はいませんでした。赤い柿の実と青く澄んだ空の対比、鐘の音の響きと余韻、そこから感じられる秋の空気感……。さわやかな秋の一日をイメージさせながら、この句も秋の澄んだ空気を感じさせる句であるという話をしました。

日本人の季節感

日本人にとって「四季」が大きな存在となっているのはご存知の通りです。俳句の季語だけではなく、手紙文の「時候の挨拶」などにも季節を表す言葉が使われますし、毎日の挨拶でも気温や天候に関する言葉を交わします。「今日も暑いですね」「涼しくなりましたね」「雪が降りそうですね」などといった挨拶は、四季がある日本ならではのものだ、とある本で読んだことがあります。確かに一年中暑い国では、「毎日暑いですね」という挨拶は交わさないでしょう。

日本人の季節感には、「春夏秋冬」という四季だけではなく、それをさらに細かく分けた「早春」「初夏」「晩秋」といった表現もあります。そして、例えば「晩夏」という言葉が夏の終わりごろの「寂しさ」を感じさせるように、言葉自体が固有のイメージを持っています。

「夏の夕方にザっと降る雨のことを何というでしょう？」……この質問に対する答えは、一般的には「夕立」になるはずです。しかし、今の小学生の何割かは「ゲリラ豪雨」と答えてしまうのではないでしょうか。また、夏の風物詩の一つである「浴衣」も、夏真っ盛りの「盆踊り」や「花火大会」のときに着るのは暑すぎるので、８月の終わりから９月にかけての「秋祭り」などで着られることが多くなった、という話も聞きます。地球温暖化の影響が大きいのでしょうか、「夏が長くなった」と感じている日本人が多く、その一方で「春」「秋」が短くなってしまったという印象もあるようです。「春」も「秋」も日本人の季節感のなかではとても大切な季節なのですが、それが短くなってしまっているということに関しては、若干の寂しさも感じます。

季節を通して豊かな感性を

アメリカにも四季はあるのですが、アメリカ人はどちらかというと「季節感」ではなく、行事やイベントで一年間のイメージをつくるのだと聞いたことがあります。有名なものを挙げれば、3月（年によっては4月）の「イースター（復活祭）」、7月の「独立記念日」、10月の「ハロウィン」、11月の「サンクスギビング・デー（感謝祭）」、そして12月の「クリスマス」などなど……。クリスマスに代表されるように、日本にもそんなアメリカ（欧米）の行事が伝わってきていますし、日本人の季節感の中に取り込まれているイベントもあります。それらを否定するつもりはないのですが、昔ながらの日本の季節感や、それに伴う文化が薄れてしまうのであれば、やはり少し残念に思います。

中学入試でも、国語や理科・社会の問題で、「季節感」を理解しておくことが必要な問題が出題されることがあります。ひと昔前と比べて少しずつ変わってきている日本の気候、そしてハロウィンやクリスマスが盛り上がるグローバル化の進んだ環境下で、日本固有の季節感が薄くなってしまっているお子様もいらっしゃるかもしれません。

単に入試問題で正解する、というためだけではなく、日本という国で育まれてきた季節のイメージ、そこから生まれてきた文化なども大切に、豊かな感性を育んでいってもらいたいと考えています。

ブログ
福田 貴一の
四つ葉café
公開中!

中学受験をお考えの小学校３・4年生のお子様をお持ちの保護者様のためのブログです。

早稲田アカデミー
教育事業本部
副本部長
福田 貴一

中学受験に関するブログを公開しています。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関するさまざまなことについて書いています。

詳細はホームページをご確認ください。

早稲田アカデミー　検索

左の二次元
バーコードを
読み込んで
ご確認下さい